

Mucha

Alfons Mucha's Women



Alfons Mucha / 1890年 複製

ミュシャ展 運命の女たち
2018.6.2 sat — 7.15 sun

【プレスリリースのお問い合わせ】 展覧会担当：安岡・太田 広報担当：岡田・大庭

静岡市美術館 〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F

SHIZUKA CITY MUSEUM of ART tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

ミュシャ展 運命の女たち

Alfons Mucha's Women

【開催要項】

会期：2018年6月2日(土)－7月15日(日) || 38日間 ||

休館日：毎週月曜日

開館時間：10:00－19:00(展示室入場は閉館の30分前まで)

観覧料：一般1,000(800)円、大高生・70歳以上700(500)円、中学生以下無料

*()内は前売および当日に限り20名以上の団体料金 *障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

●毎週木曜・土曜はトークフリーデー!

前売券：4/28(土)から6/1(金)まで販売

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡朝日テレビ、静岡新聞社、日本経済新聞社
後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会
企画協力：MBS 静岡展特別協賛：**パナホーム静岡** 静岡朝日テレビ開局40周年

展示構成

出品数 計250点

- 1章：幼少期 芸術のはじまり
- 2章：パリ 人生の絶頂期
- 3章：アメリカ 新たな道の発見
- 4章：故郷への帰国と祖国に捧げた作品群

チマル
コレクション
約150点



写真《自画像(パリ)》1898年

OGATAコレクション… **静岡会場特別出品・約100点!**

19世紀末から20世紀初頭、ヨーロッパで起こった芸術運動 **アール・ヌーヴォー**の旗手として知られる **アルフォンス・ミュシャ (1860-1939)** は、現在のチェコ共和国モラヴィア地方イヴァンチツェで生まれました。1887年 **パリ** に移ったミュシャは、出世作となった大女優 **サラ・ベルナール** の劇場ポスターをはじめ、数多くの女性像を優美に繊細な表現で描き出し、瞬く間に時代の寵児となります。その作風は **ミュシャ様式** と呼ばれ、アール・ヌーヴォーの代名詞になりました。1910年故国に戻ったミュシャは、チェコスロヴァキア最初の郵便切手や紙幣デザインから国章にまでその領域を広げ、さらには大作 **《スラヴ叙事詩》** を完成させ、国民的芸術家としての地位を不動のものとなりました。本展は、**ミュシャと同郷の医師ズデニェク・チマル博士** の親子3代にわたる膨大なコレクションから、リトグラフのポスターや装飾パネル、素描、挿絵原画、油彩画など **約150点** を厳選。「運命の女たち」というタイトルが示すとおり、初恋に始まり、栄華を極めたパリ時代、そして晩年に至るまで、**ミュシャの作品を彩った女性たち** に焦点をあて、ミュシャ芸術をご紹介します。また、**静岡展特別出品** として、静岡市在住のミュシャ作品の世界的な収集家・尾形寿行氏の **OGATAコレクション** も **約100点** 展示します。

【本展のみどころ】

- ・ミュシャと同郷の個人コレクターが、3代にわたり収集した秘蔵コレクション
- ・貴重な初期の素描や書籍の挿絵原画を多数紹介
- ・高さ2m超!ミュシャの出世作、大女優サラ・ベルナールの劇場ポスター計6点
- ・静岡会場特別出品、OGATAコレクション約100点をあわせて紹介
- ・アール・ヌーヴォーのパターンの教科書『装飾資料集』全72点を一挙公開(OGATAコレクション)
- ・計250点の作品をとおして、ミュシャの生涯にわたる先品を通覧できる贅沢な内容

1章：幼少期 芸術のはじまり

1860年、チェコ東部のイヴァンチツェに生まれたミュシャは、異母兄と異母姉、2人の実妹とともに育ちました。ブルノのギムナジウム(中高一貫校)に通いながら聖歌隊員としても活動し、この頃から絵に興味を持ちはじめます。その後、プラハの美術アカデミーへの入学を希望するも実現できず、1879年の秋にウィーンへ移り、舞台装置などを専門とする工房で助手として働きながら、工房の援助で夜間素描学校へ通います。1883年にはクーエン=ベラシ伯爵の居城で装飾の仕事に従事し、伯爵の弟エゴン伯爵の支援でミュンヘンの美術アカデミーに通うことができました。この間、ミュシャは何人かの重要な女性と知り合い交流しています。なかでも早世した初恋の人、ユリエ・フィアロヴァー(愛称ユリンカ)の面影は、後々までミュシャに影響を与え、作品のなかへ投影されています。また、美しい女性像を描いて人気を得たミュシャには、義姉や妹、初恋の人、他にも幼馴染の少女テレザ・トラプルといった幼少期からの女性との交流が影響していたと推測されます。第1章では、初期の素描、城館の装飾デザインなど、なかでもその当時に関係のあった女性にまつわる作品を紹介します。

ミュシャ
最初期のデッサン!

初期の貴重な素描

アール・ヌーヴォー期の
ミュシャ作品を予感させる
早世した初恋の人
ユリンカの「J」。



デザイン画
《J(ユリンカ、
ミュシャの初恋の人)》
1874年

幼馴染の少女、テレザ・トラプル



素描《テレザ・トラプル》1883年

クーエン=ベラシ伯爵のために
室内装飾の仕事をしていた時期に制作された作品



素描《天使のいるフレスコ天井画のための下絵》1887年

2章：パリ 人生の絶頂期

1887年パリに出たミュシャは、クーエン＝ペラシ伯爵からの援助によって美術学校で学んでいましたが、1889年に援助を打ち切れ、挿絵の仕事で生計を立てるようになります。1892年『おばあさんのお話』に45枚の挿絵を描き、その才能を発揮すると、瞬く間に人気を博しました。この時期、ミュシャは色々な雑誌にも挿絵を寄せましたが、そうした中で訪れた転機が、大女優サラ・ベルナルとの出会いです。1894年のクリスマス、印刷業者のルメルシエがサラ・ベルナルの主演する舞台「ジスモンダ」のポスター制作を、急遽ミュシャに依頼しました。1895年1月1日、完成したポスターがパリの路上に貼り出されたとたん大評判となり、ミュシャは一夜にして時代の寵児となります。その後6年間にわたりサラと契約を結び、ポスターに加えて舞台装飾などのデザインも手がけました。こうして生まれた、象徴的な女性の優美な佇まいと独創的な模様を組み合わせた「ミュシャ様式」は、アール・ヌーヴォーの中で重要な位置を占めることとなります。また、「ミュシャ様式」と並行して写実的な表現も試みており、ミュシャの芸術家としての才能を見て取れます。第2章では、こうしたパリ時代の作品を紹介します。

挿絵原画

『おばあさんのお話』でミュシャは人気の挿絵画家に。『ドイツ史の諸場面とエピソード』で歴史画シリーズを手がけたことが『スラヴ叙事詩』へとつながっていく。

スラヴ民族の歴史がドイツ史にはっきりと影響を与えている場面を自ら選び描いた



左：挿絵原画《蚊のお話（クサヴィエ・マルミエ著『おばあさんのお話』）》1892年
右：挿絵原画《プラハ大学を創立するカール四世（シャルル・セニョボス著『ドイツ史の諸場面とエピソード』）》1896年



素描

初公開作品！
見事な
白色ハイライト

素描《少女と鳩》1899年

書籍

134頁すべてにアール・ヌーヴォー風の挿絵を添える
パリ万博の公式ガイドブック



ロベール・ドゥ・フレール著『トリポリの姫君イルゼ』の装丁、挿絵 1897年

『1900年パリ万国博覧会オーストリア部門公式ガイドブック』の装丁 1900年

装飾皿

ミュシャの才能が十分に発揮された
ビザンティン風の頭部の図像が施された装飾皿



左：装飾皿《ビザンティン風の頭部：ブロンド》1898年
右：装飾皿《ビザンティン風の頭部：ブルネット》1898年

ミュシャの出世作！ 大女優サラ・ベルナルの劇場ポスター

《ジスモンダ》で一夜にして時代の寵児に。その後6年間サラと契約を結ぶ

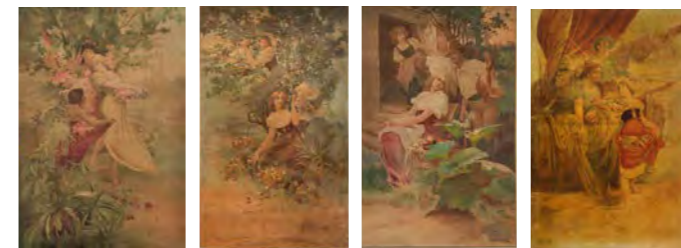


左から ポスター《ジスモンダ》1894年、ポスター《椿姫》1896年、ポスター《ロレンザッチョ》1896年、ポスター《サマリアの女》1897年、ポスター《メディア》1898年、ポスター《悲劇の物語デンマーク王子ハムレット》1899年

珍しい
4点同時展示！

装飾パネル

同年に手がけられた
《ジスモンダ》とは対照的な
古典的な表現で描かれた装飾パネル



左から 連作装飾パネル《花（ホーム＝デコ社）》《果物（ホーム＝デコ社）》《狩り（ホーム＝デコ社）》《魚釣り（ホーム＝デコ社）》すべて1894年

装飾パネルとは…
宣伝用ではなく鑑賞を目的として制作された
室内装飾のためのリトグラフ。
当時多くのコレクターが存在した。

パリ時代のミュシャ作品の特徴
・花や流麗な植物文様
・様式的・装飾的なロングヘアや衣装
・フレームによる重層性
・象徴的な女性

ポスター

商品そのものよりも、
そのイメージや雰囲気表現

様式的・装飾的に
アレンジされたロングヘアと
繊細な指先の表現に注目

ミュシャの名声を確立した
個展のポスター。
典型的なスラヴの娘を描いた



カレンダー《ビスケット・ルフェーヴル＝ウティール》1896年



ポスター《ジョブ》1896年



ポスター《サロン・デ・サン：A.ミュシャ展》1897年

3章：アメリカ 新たな道の発見

1904年、ミュシャは招待を受けてはじめてアメリカへ渡ります。アメリカへもその名声が届いていたことから手厚い歓迎を受け、同地の上流階級の人々の肖像画を描き、美術学校で教鞭もとりました。また、アメリカの大手雑誌社『ハースツ』の表紙絵や商品のパッケージなどのデザインの仕事も請け負いました。こうした渡米先での仕事には、すでにパリ時代から構想を抱きはじめていたという《スラヴ叙事詩》制作の実現化に向けて、十分な費用を工面するという目的がありました。その後ミュシャは大富豪で実業家のチャールズ・R・クレインと出会い、《スラヴ叙事詩》制作のための融資の約束を取りつけ、故郷へ帰還します。3章では、パリ時代から晩年への過渡期にあたる、アメリカ時代の作品を紹介します。

4章：故郷への帰国と祖国に捧げた作品群

ミュシャの後半生は、スラヴ民族とその文化への貢献に身を捧げたものでした。同時に、単なる流行の装飾画家としてではなく、正統派の画家として評価されることを願い、1910年母国へ戻ると、晩年の大作《スラヴ叙事詩》を仕上げるために奔走します。帰郷後もポスターや貨幣のデザインをしています。こうした晩年の作品に描かれる女性は、アール・ヌーヴォー期を彷彿とさせるものの、より民族主義的な雰囲気をもたらし、また後半生の故郷においては、娘のヤロスラヴァを多く描きました。全20点の《スラヴ叙事詩》のうち1点にも、竖琴をつまみ弾き、こちらを見つめているヤロスラヴァの姿が描かれており、1928年に開催された《スラヴ叙事詩》展のポスターには、その構図が転用されました。4章では、ミュシャの祖国色あふれる作品群を紹介します。

より民族主義的な表現に



ポスター
《モラヴィア教師合唱団》1911年

写真 モデルは
ミュシャの娘・ヤロスラヴァ



写真「《スラヴ叙事詩》の最後に完成された作品
および「スラヴ叙事詩」展のポスターのための
モデルとなるヤロスラヴァ（ズピロフ）1926年
※撮影：ミュシャ

大手雑誌社の表紙絵。
描かれているのは
ミュシャの子どもたち



商品名にデザイナーの
名前がついた初の例！

ミュシャの
名前がついた
石鹸のラベル



左：雑誌『ハースツ・インターナショナル1月号』の表紙 1922年
右：ラベル《サヴォン・ミュシャ石鹸：ヘリオトロープ》1906年

油彩画



油彩画
《エリシュカ》
1932年

《スラヴ叙事詩》展のポスター



ポスター「《スラヴ叙事詩》展」1928年

《スラヴ叙事詩》
展唯一未出品の
作品には、
同じポーズの
ヤロスラヴァが

ここまですべて アルフォンス・ミュシャ チマルコレクション

静岡展特別出品！ OGATA コレクション

世界一のミュシャコレクターであった土居君雄氏（1926-1990）※のもと、長年ヨーロッパに在住し、ミュシャ作品を収集、コレクションの形成に携わった尾形寿行氏（現在は静岡市在住）。土居氏亡き後はその遺志を継ぎ、現在は尾形氏がミュシャ作品の世界的な収集家として知られています。本展では尾形氏の厳選したミュシャ作品（OGATA コレクション）から、アール・ヌーヴォーの 패턴の教科書とされる『装飾資料集』全72点を含む約100点を、静岡展のみ特別に展示します。※ドイカメラの創業者。そのミュシャコレクションは「ドイ・コレクション」と呼ばれている（現在は堺市に寄贈）。



それぞれの季節を表現した
女性の描かれた装飾パネル

装飾パネル《四季-春・夏・秋・冬》1896年

アール・ヌーヴォーの 패턴の教科書

『装飾資料集』全72点一挙公開！



アルフォンス・ミュシャ著『装飾資料集』1902年

《スラヴ叙事詩》全20点を大画面で紹介するコーナーも



《スラヴ叙事詩》より
上：《原故郷のスラヴ民族》1912年
左：《スラヴの菩提樹の下で行われるオムラディナ会の誓い》（部分）1928年
※画像提供のみ、作品は展示されません

パッケージデザイン



ホイットマン社のチョコレート缶容器 1900年



ランスの香水「ロド」1897年



季刊行誌挿絵
『ル・ゴロワ
ジスモンダ』
1894年

実は、
出世作《ジスモンダ》を
手がけたクリスマスより前に
サラ・ベルナルを
描いていた！

すべて アルフォンス・ミュシャ
OGATA コレクション

【関連イベント】

1、講演会「アルフォンス・ミュシャ ー世紀末パリの異邦人」

日時：6月9日（土）

14：00-15：30（開場 13：30）

講師：海野 弘氏（評論家）

申込締切：5月25日（金）必着

2、講演会「装飾家としてのミュシャ、 画家としてのミュシャ」

日時：6月23日（土）

14：00-15：30（開場 13：30）

講師：古谷 可由氏

（ひろしま美術館 学芸部長 / 本展監修者）

申込締切：6月8日（金）必着

3、プレミアムフライデースペシャルトーク 「コレクターから見たミュシャ」

日時：6月29日（金）17：00-18：00（開場 16：30）

講師：尾形 寿行氏

（OGATA コレクション所蔵者、静岡市在住）

申込締切：6月15日（金）必着

※参加者全員に粗品をプレゼントします！



プレミアムフライデー限定オープン！

3日間限定 ミュシャ展 × ビール

当館カフェコーナーにて、

ミュシャ展にちなんだビールを特別提供します。

6月29日（金）～7月1日（日）

※詳細は当館 HP をご覧ください。

・未成年者の飲酒及び飲酒運転は法律で禁止されております。

・ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。

1~3 すべて

会場：当館多目的室 参加料：無料

定員：100名（応募多数の場合は抽選）

【1～3 申込方法】

当館の HP 申込フォーム（www.shizubi.jp）

または往復はがきにて。1件につき4名様まで

※往復はがき記載事項①催事名、催事日、②氏名（参加人数分）、

③年齢、④住所（郵便番号から）、⑤電話番号

返信面に宛先を明記の上、静岡市美術館まで。

※抽選の如何にかかわらず結果は通知します。

4、当館学芸員によるスライドトーク

日時：6月16日（土）、7月8日（日）

いずれも 14：00-（30分程度）

会場：当館多目的室 参加料：無料

事前申込不要、当日直接会場へ

5、しずびチビッコプログラム

日時：7月1日（日）

①10：30-12：00、②14：00-15：30

対象：2歳以上の未就学児 各回10名

参加料：500円（保護者は要覧覧会観覧）

申込締切：6月15日（金）必着

※申込方法、詳細は当館 HP をご覧ください。



アルフォンス・ミュシャ

ポスター《ムーズ・ビール》1899年

チマルコレクション